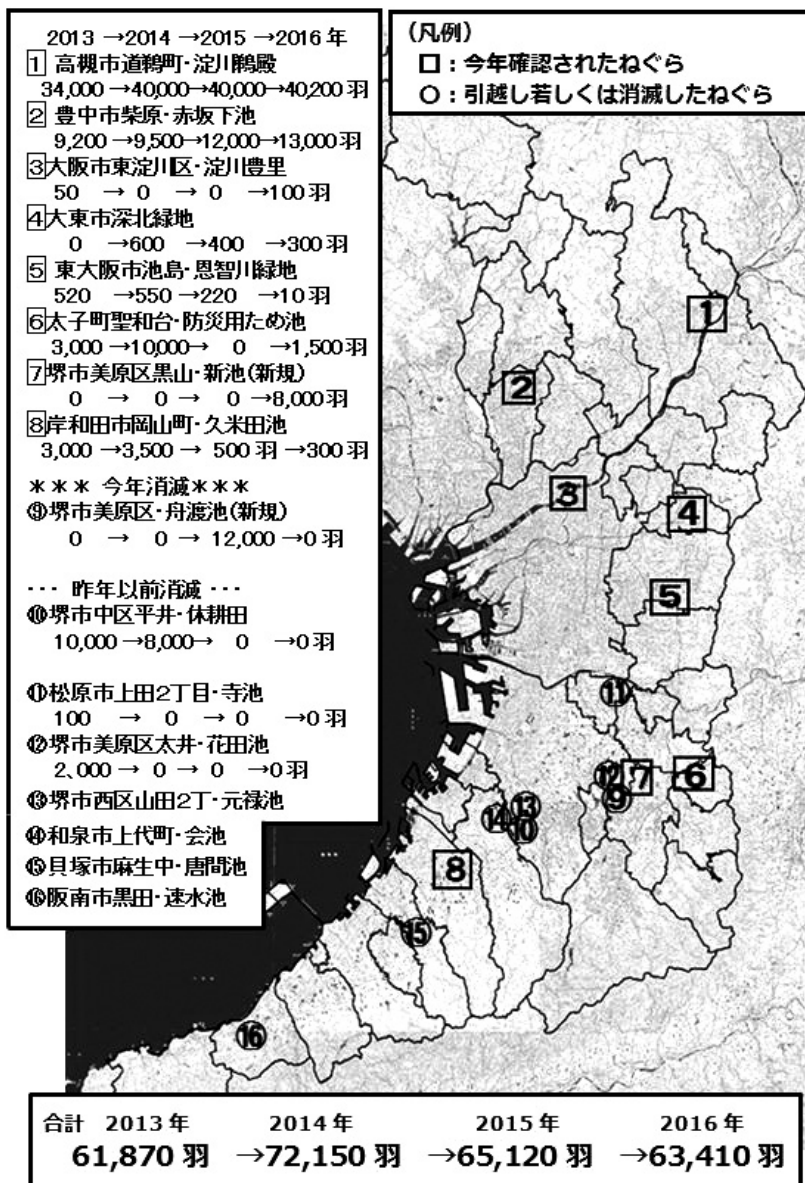


大阪のツバメのねぐら調査報告 2016

平 軍二



2016年ツバメのねぐら調査は、大阪府内の環境団体、高槻野鳥の会、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21、公益社団法人大阪自然環境保全協会、久米田池愛鳥会、大阪鳥類研究グループ、そして日本野鳥の会大阪支部の協力を得て実施した。その結果、ねぐらの数は昨年6ヶ所が8ヶ所と2ヶ所増となったものの、ツバメの数は、昨年65,120羽→63,410羽の若干減となった。今年の特徴は以下の通りである。

大阪南部でのツバメのねぐらが減少していることから、新しいねぐらがないか調査をお願いしていたが、淀川豊里でのねぐら調査を担当されている大阪支部会員で大阪自然環境保全協会会員の中野勝弥氏から、大阪南部でツバメのねぐらを探したが見つからなかったと連絡をいただいた。中野氏はさらに、和歌山県境にある和泉葛城山(標高858m)の山頂展望台で待機された所、16時頃よりツバメが集まり始め、16時30分になると和歌山県紀ノ川方面に飛んでいったとのことであった。大阪府内のツバメが1000m近い山脈を越え和歌山県でねぐらをとっている可能性が高いという新発見であり、この情報を和歌山県支部にも連絡し共有してもらい、2017年度には和歌山県で、大阪府側からねぐら入りするツバメがどれ位あるか、確認していただくことをお願いしたい。

2016年の大阪府内の状況であるが、最大のねぐら①高槻鶴殿は40,200羽に漸増、今年ねぐら位置が幾分南西側に移動していたが、ツバメが新しいねぐら適地を見つけたためと思われる。北大阪第2の②豊中赤坂下池は13,000羽の1,000羽増となった。ツバメが観察しやすく、人気のねぐら観察地となっている。

ここ2年間ねぐらとして利用されていなかった③淀川豊里は、ヨシ原が回復したのか、100羽ではあるがツバメが戻っていた。今後に期待したい。④深北緑地はねぐら入り数が漸減、また⑤池島恩智川は都合で調査が9月下旬になったため10羽にとどまったが、ねぐら利用されて継続されていることを確認した。

南大阪では今年もねぐら移動があり、昨年12,000羽の⑨堺市舟渡池がねぐらとして利用されず、すぐ近くの⑦黒山新池に8,000羽、一昨年利用されていた⑩太子町聖和台防災ため池1,500羽で復活など再分散しており、流動的である。



豊中市赤坂下池のねぐら入り
とよなか市民環境会議アジェンダ21提供

更に大阪府最大のため池⑧久米田池も300羽にとどまっており、大阪南部全体でのツバメのねぐら入り数は漸減状態にある。上述の和歌山県側へ山を越えての移動や、一度利用しなくなったねぐらの復活など、ツバメのねぐら選び基準は何か、まだまだ分からないことが多い結果となった。